

町内井戸めぐり①

現在編集中の『西原町史』考古編では、町内の各集落の共同井戸を考古学の視点から調査し、まとめていきます。

西原の井戸は、その多くが堀り井戸で、湧泉の数は少ないといえます。それは、西原の地形や地質に関係すると思われまふ。

井戸の造りは、石積み造りや、クチャを堀抜いただけの井戸など様々な形態がみられますが、そのなかでも湧水に樋をかけるヒージャーガー（樋川）という造りの井戸があります。

西原では、森川の一貫ガー・棚原のヒージャーガー・池田の御茶多理ヒージャーの



△棚原のヒージャーガー

四つのヒージャーガーがありました。残念なことに現在その姿を残しているのは、森川の一貫ガーのみとなっています。

棚原のヒージャーガーは、現在の区画整理区内にありましたが、写真でみるように、長方形の切り石積みの溜池があり、樋は石造りで、上部は土留めのあいかた積みが施されています。そして溜池の前面の前庭部も切り石が敷かれています。樋口は、三方所あって、真ん中の大きい口が「ペーペー」左右の小さい口は「ペーペーグワー」と呼んでいたようです。どうしてそう呼ばれたのかはよくわかっていませんが、ある話では「ペーペー（山羊）の生まれでてくるところに似ているから」とのこと。なんだか奥が深いような話ですね。この呼称については、もう少し調べてみたいと考えています。御存知の方の情報をお待ちしています。

棚原のヒージャーガーのほれはれするような立派な石積みの写真を見て、改めて石造文化の魅力を実感しているこの頃です。

追記…ヒージャーガーは近く復元されるようです。